

「学ぶ」とは「創造的である」こと。学生とともに成果を生み出す研究教育。

# 進化を続ける充実した教育



## 新融合分野の世界的研究者の養成

東北大学は2006年4月、既存の研究科・教育部の枠にとらわれず、異分野を融合した新しい研究分野で卓越した知識と創造的な「総合知」を備えた、世界トップレベルの若手研究者の養成支援組織として、国際高等研究教育院を設置した。

(左) 吉本高志総長(右) 井上明久副学長(当時)2006年11月より総長就任

## 総長教育賞の授与(東北大学の教育理念に基づき、優れた教育の成果を挙げた教職員を表彰)

【情報科学研究科】

助教授 今井 秀雄

全学教育科目において難解といわれる数学の授業を分かりやすく行い、教育効果を格段に高めた授業実践の功績。

【理学研究科】

助手 佐々木 伸樹

理学部専門教育科目「化学一般実験」の実験内容の改良及び実験装置の近代化を図り、国内最高水準の装置を備えるに至った功績。

【生命科学研究科】

大学院生態学合同講義世話人(代表:教授 南澤 究)

農学研究科、理学研究科、医学系研究科及び生命科学研究科が協力ネットワークを結ぶ36年間にわたる本学独自の大学院レベル部局横断型の全学的教育として、生態学合同講義において、生態や環境をキーワードにした広範な視野を醸成した優れた授業実践。

## ユニバーシティ・ハウス三条 完成

日本人学生と外国人留学生が日常的な交流を通して国際感覚を身につけるとともに、異文化への理解、協調性・社交性の涵養などを目的として建設された定員416人の全室個室の学生寮。2007年2月に完成した。



スチューデントホール

## 文部科学省「大学教育支援プログラム」の採択 ( )は実施主体部局、\*は2006年度採択

### 特色ある大学教育支援プログラム

- ・国際コンピテンシー人材育成教育プログラム(工学部)
- ・融合型理科実験が育む自然理解と論理的思考(高等教育開発推進センター)
- ・「学びの転換」を育む研究大学型少人数教育(高等教育開発推進センター)\*

### 「魅力ある大学院教育」イニシアティブ

- ・言語研究者・言語教育者養成プログラム(文学研究科)
- ・国際的若手研究者養成プログラム(理学研究科)
- ・フライト実践による航空宇宙フロンティア(工学研究科)
- ・生体・ナノ電子科学国際教育拠点(工学研究科)

### 法科大学院等専門職大学院教育推進プログラム

- ・会計大学院教育課程の国際水準への向上(経済学研究科)
- ・体験型教育の多角的実施と実務教育基盤構築(法学研究科)\*
- ・会計職業のための資格取得後教育課程の編成(経済学研究科)\*

### 特色ある大学教育支援プログラムの成果

少人数学部横断型教育の「基礎ゼミ」

2002年度から本格的に実施してきた東北大学の全学教育科目「基礎ゼミ」は、2006年度には150以上のテーマで開講するまでに発展した。基礎ゼミは、教員からの一方通行ではなく、学生の主体的な姿勢を育む参加・体験型のフィールドワークや実習などを採用。1年生のほぼ全員が履修し、クラス編成が学部横断となっている。



2006年度開講「乳酸菌と機能性ヨーグルト」実習の様子  
「『学びの転換』を育む研究大学型少人数教育」

### 地域医療等社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム

- ・地域ニーズ対応型総合周産期実践医育成計画(病院)\*

### 派遣型高度人材育成協同プラン

- ・環境に優しい鉄鋼材料創出教育プログラム(工学研究科)

### 大学教育の国際化推進プログラム

- 戦略的国際連携支援
- ・日欧・日中次世代指導者育成共同教育実践(国際交流部)
- 海外先進教育研究実践支援
- ・先進的ICTリテラシー強化教育プログラム(情報科学研究科)
- ・新融合研究領域創生プロジェクトの支援(全学)
- 長期海外留学支援
- ・長期海外派遣留学プログラム(国際交流部)

### 「魅力ある大学院教育」イニシアティブの成果 2006ARLISS カムバック・コンペティションで上位を独占

ARLISSプロジェクトとは、固体ロケットで高度4,000mまで小型ロボットを打ち上げ、ロケットから分離した小型ロボットを飛行させる、もしくは着地後地上走行させることにより、目的地に到着する精度を競うもの。2006年のコンペティションにおいて、大学院工学研究科の学生チームが開発した2機の小型ローバーが、1位・2位を独占するという快挙を成し遂げた。



2006ARLISSカムバック・コンペティション会場の米国ネバダ州の砂漠にて  
「フライト実践による航空宇宙フロンティア」